

車いすISOオーランド会議出席報告

車いすISO国際会議作業部会が、11月15日～19日にオーランド（アメリカ）において開催された。日本からは田中理氏（横浜リハセンター）、米田郁夫氏（東京都補装具研）、美澤麟太郎氏（サンワ車輛）そして、筆者の4名が参加した。

ISO（国際標準化機構）は、SC1（車いす専門分科会）の中にいくつかの作業部会を構成し、それぞれのグループで手動、電動車いす（スクーターを含む）に関する試験方法等に関する専門的な討議を自由に行わせる場を設定し、各国共通の試験方法を検討している。現在作業を行っている作業グループとしては、次のものがある。

- ①WG1（試験方法）
- ②WG6（車いす拘束システム）
- ③WG7（電動車いす制御用標準インターフェース）
- ④WG8（階段昇降装置）
- ⑤WG9（スタンドアップ車いすの性能の決定）
- ⑥WG10（電動スクーターと電動車いすの電磁的互換性の試験方法及び要件）

これら作業部会は、会期中に並行してそれぞれが実施されており、すべての会議に出席できないのが現状である。そこで、できる限り多くの情報を得ることと、日本としても積極的にISOに対応するため、会議出席者が分散してWG1、WG6、WG8の作業部会に参加している。

WG1では、日本会議からの懸案となっていた、電動車いすの動的安定性試験(案)について、各国より多数の修正点が提示されたため、それらについて討議を図り、WG1として修正案をまとめあげた。また、強度試験、静的安定性等の議題については、犬山会議までの作業部会で大筋の検討が図られており、DIS（国際規格案）まで進展していた。その他、ISO規格の見直し課題として、耐候性試験、ブレーキ効率等の作業を進める方向で動いている。写真1に、WG1の会議状況を示した。

WG6には、日本として今回初めて出席したが、特殊仕様車いす、あるいは子供用車いす等に関する車いすの固定方式を、今後の課題として考慮すべきであるということが提案され、会議の中で討議された。

WG8では、日本会議において階段昇降装置の段差落下衝撃試験を、車いすのダブルドラム耐久試験装置を利用して行う方法が検討されてきたが、この会議においては却下され、他の方式による再検討が進められた。

これまでは、欧米主導でこの国際会議が進められてきたが、近年では、日本からも規格案に対する試験データ等の提示を可能な限り行ってきたことで、発言の機会が求められるようになった。今後は、公的な機関ばかりでなく、規格の内容によっては関連する民間企業の専門家もISO会議に積極的に出席し、意見を十分に反映させると共に、日本としてもより多くの情報入手する必要がある。さらに、国際社会の一員として規格制定に貢献する必要性を感じた。

（車いす開発室 佐藤正之）



写真1 WG1会議状況